

校長として着任して

第25代校長 吉田 順一氏 (高校29期)

「定年まで残りあと3年は、おとなしく・・・」と思っていましたが、異動内示は「立川高校への異動」でした。今まで「進学指導重点校」間での異動はなかったので、少し驚きましたが、母校への異動ですから気合いが入ったことは間違いありません。

いろんなところでお話しているのでも、ご存じの方が多いと思いますが、私は「立高29期生」です。昭和52年3月卒業ですから、ちょうど40年前に高校3年生だったこととなります。当時は痩せていて、眼鏡を掛けていたので、一見真面目そうだったかもしれません。



高校2年

高校の時は、生徒会長を務めさせていただきましたが、その他にも、体育祭実行委員・文化祭実行委員・応援団といろいろなところに首を突っ込み、立高生活を謳歌していました。

部活動は、入学時に28期の先輩たちが「硬式テニス愛好会」を立ち上げようとしていたのに賛同して入会しましたが、同期の中溝君たちの努力で、「硬式テニス同好会」から「硬式テニス部」へととんとん拍子に昇格しましたので、私も「硬式テニス部の1期生」ということとなります。

進学は、医学部を志望していたのですが、力及ばず1浪の後、理学部数学科に進みました。卒業後、教員志望となり、1年間の準備期間を経て、都立の工業高校定時制課程が入都になります。

その後、都立高校2校を経験し、教頭選考を受験しましたが、任用前の2年間に「東京都交通局」での長期社会体験や島嶼校での勤務を経験しました。

その後、2校の教頭(副校長)経験を経て、都立保谷高等学校長・東京都西部学校経営支援センター学校経営支援担当課長・八王子東高等学校長を経て、現在に至っています。

よく「立高生はどう変わったか」と聞かれますが、「素朴さ」や「一所懸命さ」は変わらないと感じています。ただ、社会的な傾向を反映してか、潜在的なポテンシャルの高さに対して、自己評価が低いような気がします。もっと「高い志」や「自分を高めてくれる環境」を目指して頑張りたいというのが、先輩からのエールです。



応援団(1年)

高校2年の時の体育祭
(グランド風景)

私は、高校卒業後も、スキー教室補助(13年間)および臨海教室補助(17年間)を通じて立高と関わっていました。そして、自他共に認める「立高大好き人間」です。ちなみに妻も娘も立高生です。(32期と58期になります。)ですから、定年までの3年間は立高の発展の為に精一杯頑張る所存です。立高生はもちろん、保護者の皆様、地域の皆様にもご協力いただき、立高が真の多摩地区のランドマークとなることをお約束したいと考えています。

【教員になってからの変遷】



30歳代



40歳代



校長昇任の頃



現在